

Japan
Food
Research
Laboratories

第 10009018001-01 号
2010年(平成22年)03月09日

試験報告書

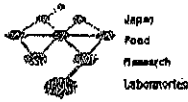
依頼者 株式会社 徳潤



検 体 松康泉

表 題 細菌を用いる復帰突然変異試験

2010年(平成22年)02月01日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。



細菌を用いる復帰突然変異試験

要 約

松康泉の突然変異誘起性を調べる目的で、「医薬品の遺伝毒性試験に関するガイドラインについて」(平成11年11月1日 医薬審第1604号)の別添「遺伝毒性試験ガイドライン」に従い、*Escherichia coli* WP2uvrA及び*Salmonella typhimurium* TA系4菌株を用いて復帰突然変異試験を実施した。

検体(カプセル)の内容物について、156~5000 μ g/プレートの用量で試験を行った。その結果、復帰変異コロニー数の増加は認められなかった。

以上のことから、本試験条件下における検体(カプセル)の内容物の突然変異誘起性は、陰性と結論した。

依頼者

株式会社 徳潤

検 体

松康泉

試験期間

2010年02月01日~2010年03月09日

試験実施施設

財団法人 日本食品分析センター 千歳研究所
北海道千歳市文京2丁目3番

試験責任者

財団法人 日本食品分析センター 千歳研究所
安全性試験部 生物科学課
中尾 亮介